

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月12日

事業所名 あおぞら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		療育準備以外の業務が多い。配置基準は満たしているが、日によっては業務分担が難しくなることもある。児発管不在の時期は出来るだけ短くする為に、他の職員が資格を取った。	本年度事務職員を配置しました。人員配置については、今後も不足なく人員を確保できるよう対策を取るようにします。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			日々の清掃や空気清浄の設置など清潔な環境づくりに努めています。またおもちゃの消毒も行うようにしています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			送迎等の関係で職員全揃っての話し合いの時間の確保が困難な場合もあるが、定期的に機会を設け、話し合いの場がもてるようにしていきたいと思えます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			職員間で定期的な話し合いを持ち、頂いたご意見等は都度職員間で検討できるようにしたいと思います。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			実施内容はホームページにて公表しています。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部講師の先生から療育に関わる様々なところで評価助言を頂き改善に繋げていると思う。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			今後も研修の機会を設けるなど全職員とも研鑽を積み、職員の質の向上に努めるように致します。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			保護者との面談を実施したり、関係機関と連携を図ったりしながら情報を共有し、支援計画を作成しています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			プログラムの内容は職員間で検討・確認を行い、よりよい内容の療育実施できるようにしております。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			同じ活動でも固定化しないよう、内容を変えるなど工夫をしています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			送迎業務のため全員での打ち合わせは難しい時もありますが、個別での打ち合わせは毎回行っています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必ずではないが、支援について時間を見つけて職員間で話すよう心掛けている。必要に応じて行っているが、毎回十分な時間を確保できているとは言えない。	送迎業務の為毎回全員での振り返りは難しいですが、各自で気付いた点を職員間で話し合うようにしています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			その日の状態や様子を毎回記録しています。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的にモニタリングを行い、必要に応じて目標や計画の見直しを行っています。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			必要に応じて情報共有をしながら相互理解を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学前相談会で子ども(年長児)の保護者も含めて支援内容等の情報を共有できると聞いています。	移行支援シートを活用したり、担当者会議の中で情報共有をしています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	保育所等の交流がないので考えていきたい。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		個人としては参加したことはありませんが代表の先生が普段よく参加して下さっています。	担当職員が参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お帳面に家庭での様子を聞いて下さるところは「はい」にあたると思います。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			入園時に説明を行い、施設内掲示を行っています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談会や連絡帳、送迎時を利用し、対話に努めています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コロナの影響もあり懇親会が開催できなかった。保護者懇親会を実施しているが、仕事や家庭の都合で出席が難しい方も多い。	現在は感染予防の観点から実施が難しい場合もありますが、保護者会の日程や内容については、職員間で検討し、より保護者の皆様が参加しやすいものとなるよう工夫してまいります。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			主に児童発達管理責任者が窓口になり、相談に応じるようにしています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月の活動概要や行事予定・日程等、保護者や行政に発信しています
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個別面談等	活動の際に視覚指示を用いる等、子どもに応じて配慮を行っております。保護者には連絡帳や面談を通じて情報の伝達を行っています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			災害時の避難経路や避難場所などについては配布を行っていますが、今後も保護者へ周知していきたいと思います。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練は原則年2回以上実施するようにしています。今後は実施後の保護者への報告も徹底したいと思います。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			新人研修プログラムに組み込んで実施するように検討しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			